

活用事例



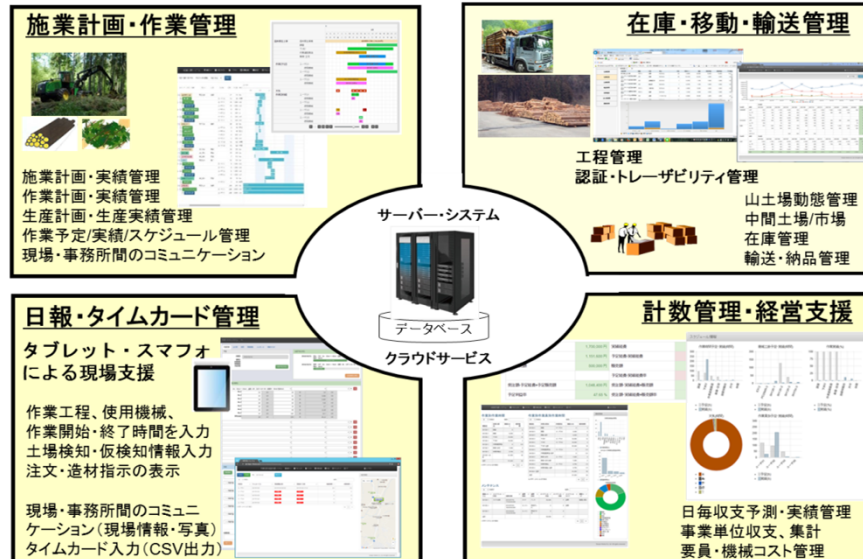
森林経営業務管理支援システムの活用

事例の概要①

- A素材生産業者では、従来社長自ら各林産現場を回り、進捗状況の把握、現場作業員への指導・要員教育を行って来たが、現場数の増加に伴い全現場を回ることが困難となった。
- このため、管理者が現場に赴くことなく、PC画面を通して作業現場からの日報報告や現場の状況写真などにより現場状況を共有把握、チャットや電話で作業確認・指導を行うシステムを導入した。
- 現場要員には全員にタブレットを配付し、直行直帰の場合にも現地（近く）にて日報、状況写真などを入力をおこなうことで、作業者の入力の手間、及び管理者の工数が著しく削減された。
- また、事務所経由での出勤退勤時には担当者のQRカードによりPCタッチパネル画面を起動、出退勤や日報報告を瞬時に行えるようになり、管理面でも現場毎・日毎の収支管理が可能となった。
- また、作業前のKY(危険予知)の管理者との対話もタブレット入力で行い回避手段の徹底と実績の記録が可能となった。
- タイムカードの集計後、CSV出力で給与システムと連携、事務作業の軽減につながっている。

事例の概要②

- G県では県森連が主体となり、素材生産から原木の納入までをカバーする素材流通システム(SCM)を構築し実証試験を実施中。
- 当システムを県全ての森林組合で活用し、生産状況と作業計画管理の統一化を目指す。
- 同時に県森連がおこなう原木購入者(製材所、合板工場等)への協定販売を一括管理。各森林組合から入力された全施業地ごとの生産予定を参照しながら各組合に生産割当を行い、森林組合からの生産実績報告を共有し注文に対する納品状況を管理。
- また、山土場への出材状況を輸送会社と共有し、土場の動態と原木輸送の管理を行う。
- 生産から納品までの各工程における予実管理、各種集計等の情報が日々把握でき、情報共有・統合管理による効率化を実現。次期システムでは受発注・請求を含めた商流を統合し質の高いSCMシステムの実現を計画、将来的には市場販売からの移行を目指す。
- その他3県においても当システムと連携する同様の流通管理システムを構築し実証試験を実施中。



ICTによる木材トレーサビリティと需給調整の効率化